

令和4年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和4年12月13日（火）午後6時30分～午後8時00分

開催場所：笠間市役所 本所教育棟 2階 2-1・2-2 会議室

出席者：18名

テーマ：笠間の栗

《説明後の意見交換》

- 1 原材料高騰に対する支援について
- 2 品種別の出荷や品質向上について
- 3 所得向上と反収向上、耕作放棄地の活用について
- 4 農家の育成などについて
- 5 単価や品質の向上、定年前の準備について
- 6 栗農家の機械化について
- 7 栗ファクトリー前の店頭販売の衛生面について
- 8 「笠間の栗」の基準について
- 9 栗の周知について
- 10 加工業者の不足について
- 11 栗むき手の確保について
- 12 人手不足の解消について
- 13 子どもに対する栗の教育について

1 原材料高騰に対する支援について

【意見等】

栗ペーストの値段が安くないか、という意見がある。安くないとしても、例えば大ロット（100kg以上）の取引の場合は何かサービスがあったり、ペースト以外の製品（甘露煮や渋皮煮）があったりすると、地元のお店も使いやすいのでは。

【回答】

地産地消を進める仕掛けは必要だと思う。どう進めるかは考えなければならないが、多く取引しているところへサービスするのは商習慣としてある。笠間栗ファクトリーでも同様の意見が出ており、来年に向けての検討課題としたい。

2 品種別の出荷や品質向上について

【意見等】

今までは「岩間の栗」であった。「笠間の栗」という名前は市町村合併でできた。「笠間の栗」が広まっ

て、少しずつ品種別が出てくるようになった。今後は他と違うことをやって目標を持った栗づくりを進める必要があると思う。ブランド化するには、他でできないことをやっていかなければならないと思う。外国産の栗にも対抗できるものを作らなければならない。笠間の栗のブランド化のためにできることを皆さんと検討していきたい。

【回答】

農産物は、もともと市町村の名前を使っているところが多い。いずれにしても「笠間の栗」の知名度は確実に上がっている。

品種別の出荷は行政だけでできるものでもないので、手間はかかると思うが関係機関と課題を共有し、考えていきたい。ペーストも品種別にすればブランド化を極められると思うが、今すぐというわけにはいかない。

3 所得向上と反収向上、耕作放棄地の活用について

【意見等】

JA 栗部会では、今年は例年より収穫量が多かった。今年から笠間栗ファクトリーにも出荷した。来年以降も応えていきたい。さらに今年は平均単価が上がり、手取りも増えた。知名度の向上も期待している。

最近では栗の加工品やペーストなどの需要が増えてきたが、一番の悩みは収穫。収穫方法いかんで面積も増やせると思うが、反収を上げる方法や、せん定の仕方が課題だと思う。また、畑の耕作放棄地をどう活用するか。栗で儲かれば、みんな作るようになる。

【回答】

栗の生産者の大きな課題は、手作業で栗を拾うことだと聞く。機械化できないことが難点だが、現在の生産者で限界があるとなると、例えば制度としてサラリーマンの副業で作業をカバーすることなども検討の余地はあると思う。

耕作放棄地に関しては、現在は苗木の補助だけなので、栗畑の整地に対する支援も検討したい。

4 農家の育成などについて

【意見等】

現在、栗農家は高齢の方が多い。これから笠間の栗の生産・供給を維持するためには、本気で栗栽培をやりたいという人が出てくると良いが、農家の子どもはサラリーマンだったり、定年年齢が延びても気持ちの問題があったりする。

また、栗の反収が少ない。栗で生活するためには広大な面積が必要なので耕作放棄地を集約し、やる気のある農家に託すことが必要だと思う。

さらに、栗の値段が高くなっているが、品質が悪いと笠間の栗の信用を落とすことになる。行政でも栗の品質向上につながるような施策を考えてほしい。

【回答】

栗栽培は本気でやらないと厳しい。大事なのは「儲かる」ことである。儲かる業種に人は寄っていく。栗

も、販売価格を上げて、儲かる仕組みや若くて生産意欲のある農家を支援し、栗専業農家が育つようにしていきたい。また、企業が市内の農地で栗栽培を検討している話も聞くので、見極めて農地などの紹介をしていきたいが、集約されている農地はなかなか無い。

いただいた意見はしっかり受け止めていきたい。

5 単価や品質の向上、定年前の準備について

【意見等】

昔は、値段が安いと品質が悪いと思って買わないと言う人もいたようである。栗の単価・反収を上げる方策や農家の収入を上げる方法を検討しなければならないと思う。

また、勤め人は定年になってから苗木を植えては遅いので、定年前に準備を進めることも必要だと思う。

【回答】

お客様の目は厳しいので、単価の向上と品質の向上は平行して取り組んでいかなければならない。品質向上のために技術講習会等を開催していきたい。

値段が高くて買った人がおいしく感じてくれるなら良い。そうでなければお客さんは離れていく。それが競争社会だと思う。一方で地元の人からは（値段が）高いという苦情がかなりあったが、いま栗は高いものである。消費者にもそのような意識を持ってもらえるようにすべきである。高く売れば最終的に消費者に転嫁される。いまはその境目の時期であり、行政もしっかり対応したい。

定年を見越して、定年前から苗木の支援を受けて苗木を植え、本格的に取り組んでいる人もいる。引き続き応援したい。

6 栗農家の機械化について

【意見等】

栗生産は収穫が大変と聞く。機械メーカーも、栗が生産されなければ技術開発も機械生産もやらない。栗の収穫量が増えれば、生産が拡大していくと思う。そのために、機械の開発を市から機械メーカーにアプローチしてほしい。機械化が進めば生産者としてもありがたい。

【回答】

県農業技術センターで数年前に栗の生産機械のテストを行ったが、どうしても不具合が生じるのが実情であり、現在も製品化に至っていない。作業の効率化につながるような機械が開発段階だが、実際は進んでいない。県も技術開発に取り組んでいるので、協議していきたい。

すぐ使える機械はないが、既存の機械の改良について、どのような企業と協議するのが良いのか、検討する。

7 栗ファクトリー前の店頭販売の衛生面について

【意見等】

栗ファクトリーの前で週末に店頭販売している業者がいるが、あれは違法ではないか。絞りたてモンブ

ランを販売する場合は、三方囲まれた場所で行わなければならないと保健所から指示が出ている。

【回答】

販売しているのは、栗ファクトリーのペーストを購入している土浦の事業者である。栗ファクトリーは場所を貸しているだけ。その事業者は飲食業なども展開しているようであり、保健所の衛生的な部分に違反するようなことは行っていないと思うが、確認はする。もし違反しているような場合は、改善させる。

いずれにしても、しっかりしたモンブランを出さなければ、競争に負けてしまうと思う。

8 「笠間の栗」の基準について

【意見等】

「笠間の栗」という名称を使い続けるには、使用の際のチェックも必要だと思う。「笠間の栗」のネーミングがあっても、どのくらい笠間産の栗を使っているのかわからない商品もある。基準を作らなければならないと思う。

【回答】

「笠間の栗」のマークは商標登録されているが、例えば「笠間産の栗が一定量入っているものでないと『笠間の栗』と言わせない」というような基準を作るかどうかは検討が必要である。一定の知名度が出れば、どこかの段階で方向性を再考し、品質を上げていくことや専門家などの意見を聞いて考えていくことも必要だと思う。

9 栗の周知について

【意見等】

栗栽培の土地柄や品質・種類など、一般消費者の中にはわからない人もいる。栗について周知をして、「笠間の栗」にも関心を持ってもらうような宣伝があっても良いのではないかと思う。

【回答】

例えば道の駅かさまの直売所には、栗の種類や時季、加工方法などがわかるパンフレットを置き、少しでも消費者の皆さんに理解してもらおう PR をしている。直売所も含め引き続き広報に取り組んでいきたい。

10 加工業者の不足について

【意見等】

「笠間の栗」は、生栗はあるが、加工業者はまだ足りない。菓子店でも、ペーストは手に入るが、甘露煮は手に入らない。加工業者を増やしてほしい。それによってブランド化を目指したい。

【回答】

加工業者の技術向上や商品開発が必要だと思う。また、笠間で作っていない商品を作ってくれる加工業者がいれば、スタートアップの時点で何かの支援をして取り組んでもらうことも必要だと思う。加工業者への支援も検討していきたい。

11 栗むき手の確保について

【意見等】

栗の皮むきができる人が少なくなっていて、事業者もなかなか栗のむき子を確保できない。栗むきも難しく、数回やっただけでは覚えられるようなものではないが、今年、市によるむき子の講習会が開催されたのは良かった。また、むき子には時給ではなく、むいた量で報酬を支払うなど、むき子が働きやすくなるようにしてほしい。

【回答】

(栗むき子マイスター養成講座は) 今年2回実施した。申し込みが多かった。一人につき5回連続のコースにするのもありだと思う。集まって作業したり自宅で気軽にできたりすることも必要である。むき子を集めるためには、事業者が育てるのか、しっかり雇用契約を交わすのか。季節限定でも、むき子の作業体制や良い環境を作らないと育たない。むき子を評価することも重要である。栗むきが一つの技術であることをPRしていきたい。

12 人手不足の解消について

【意見等】

最近「笠間の栗」が話題になっている。本日参加して、働き手で苦労していると感じた。以前、木のオーナー制度があったが、人手不足解消の方法として、栗も、都会の人などにオーナーになってもらい、収穫作業などもしてもらうのはどうか。

【回答】

オーナー制度については、栗木の所有者にメリットがあるような仕組みを作らなければならないと思う。

13 子どもに対する栗の教育について

【意見等】

子どもたちに栗に興味を持ってもらえるよう、ほ場や工場の見学も含め、栗の育て方や加工の様子を知る機会が必要ではないか。

将来、自分の食べた栗は日本一の栗の“まち”で作られていることを思い出し、笠間に戻ってきてもらえるような“まち”でありたいと思う。

【回答】

栗が「いが」に入っていることもわからない人もいるが、子どもたちには、栗の成長過程などを知ってもらう仕組み作りに取り組んでいきたい。栗ファクトリーの見学も、学校と協議していきたい。